

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 5月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675700100
法人名	有限会社 エミ企画
事業所名	グループホーム くりの
所在地	鹿児島県始良郡湧水町米永181-1 (電話) 0995-74-1220
自己評価作成日	平成26年4月25日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年5月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

目の前には、栗野岳の山々や川内川があり、自然に恵まれた環境に位置しています。2階へ続く階段は、温もりある一枚板を使用し、緩やかで移動しやすい作りになっています。敷地内には、多目的ホール「ふるはうす」があり、誕生会や敬老会などを行っております。外部からの慰問を呼びかけ地域への開放を行っております。又、ホーム内研修で行政の協力による「認知症サポーター講習」、消防の協力による「普通救命講習」を全スタッフ受講しております。職員の学ぶ意欲、よりよいケアを重視し外部研修などへも参加しています。基本理念、活動目標の理解に努め、スタッフ間で互いに声を掛け合い自然と笑顔のあふれる対応を心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは図書館・温泉等の公共施設、スーパーが近くにあつて、利便性に富んでいる。木造の緩やかで移動しやすい外階段やリビングとベランダが繋がっている等、利用者に優しい造りのホームである。車椅子利用者を簡単に誘導する為のエレベーター設置も検討中である。

- ・栗野岳の山々が眺められるベランダでは、常時食事やお茶を楽しんだり、災害時の避難誘導にも活用できている。
- ・代表者・管理者は個別に職員の意見や提案を聞く機会を設け、互いに働きやすい環境を整え、ホームのサービス向上に繋げている。
- ・職員は本人のできる事、出来ない事、したくない事を見極め「もし利用者が私だったら、家族だったら」という思いと、理念に沿った家族の一員であるという認識を持って業務に取り組み、ケアする喜びや達成感を味わっている。
- ・敷地内の多目的ホール「ふるはうす」ではホームのイベントや運営推進会議・職員研修が行われ、中学生との交流など地域にも開放されている。
- ・「いつも笑顔」をモットーにホーム全体に笑い声のたえない、利用者・職員が生き生きしているホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員会議や毎朝の朝礼時に皆で三唱し、よりよいケアにつながるように、理念の共有と実践を図っている。	1・2階合同で朝礼時に理念を唱和、事業所がめざすサービスの有り方を共有し意識付け、実践に繋がっている。職員会議やケア会議で理念がケアに反映されているか、振り返りを行い、ケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常の散歩や、地域の行事に参加し挨拶を交わしたり、ホームの多目的ホールを地域に開放する等、気軽に立ち寄れる場として呼びかけている。	地域行事の相撲大会や秋祭りに見学参加している。中学生の職場体験やボランティアも受け入れている。地域の消防後援会に加入し、ホーム便りを近隣にも配布、散歩時の挨拶や野菜等の差し入れがあるなど、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	中学生の体験学習受け入れ、スタッフは、認知症サポーター講習受講の機会を生かし、地域社会への認知症の理解アピールに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催し、運営体制・家族からの苦情・提案事項・事故について報告し、出席者の意見を受け入れサービス向上に活かしている。	行政、民生委員、交番署員、地域・家族・利用者代表等の参加を得て、定期的に開催している。入居者状況、行事等のホーム側からの報告や問題点等の話し合い、意見を貰う場になっている。会議内容をサービス向上に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町主催の研修・地域包括支援センターの研修に参加したり、ホームの敬老会に参加を呼びかけ、指導や協力支援を頂いている。施設でスタッフに対しての認知症サポーター講習を開催して頂いている。	ホーム職員は町主催の研修会に参加したり、行政も運営推進会議やホームの敬老会等へ出席、当施設での認知症サポーター講座開催など協力を貰い、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は、施錠せず、見守りに努め安全で開放的な暮らしを支援している。身体拘束廃止委員会で計画を立て職員会議の中で、当番スタッフが研修を行っている。事故防止の為に身体拘束については一時的、代替がない、生命の危険など十分な説明を行い、同意書を頂くようにしているが、現在は該当者なし。	身体拘束廃止委員会で計画を立て、研修会を行い、「禁止となる具体的な行為」を正しく理解し、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。入居時にホームの基本方針を説明、昼間は施錠せず見守りに努め、安全で開放的な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議、ケア会議などで勉強会を開いており防止に努めている。身体的のみならず、言葉の虐待がある事を、事例を用いて勉強する機会があり防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ、必要とされる利用者はいない。外部研修などに参加し、学ぶ機会を持っている。研修後に、ホーム内研修でも勉強し全スタッフで理解につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約書や、重要事項説明書を読み合わせしながら確認作業し疑問点や不安等質問に応じ納得や理解に努めている。又、改定後も随時ご家族に説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会や、それぞれの面会時に疑問点や、要望などに答える努力をしている。その時にお答え出来ない時は、後日報告している。日頃から、何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意している。又、意見要望等は職員会議で全スタッフと話し合い運営に反映している。	年4回は、ほほえみ通信を発行、月、1回は利用者の生活状況を担当職員が便りで報告している。家族会や面会時に職員から声掛けし、意見を聞くようにしている。家族の要望により、1階～2階に上がる階段に雨よけの塀設置ができ、改善に繋がっている。第三者委員も掲示、相談・苦情が言いやすい体制ができている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全スタッフが集まる、職員会議の時に意見要望など話す機会がある。又、代表者は年2回、個別に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は、日常業務の中で職員と意見交換を行い代表者と話し合い運営に反映している。	代表者・管理者は個別に職員とのヒアリングを持ち、思いを受け止めたり、意見や提案を聞いている。職員会議でも活発に話し合いが出来ている。職員個々が資格取得にも意欲的で事業所も支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、個々の職員の勤務状況や実績等を代表者に報告し、互いに働きやすい環境を整え処遇改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修は、個々の希望に応じて参加調整を行っている。又、スタッフからもこのような勉強をしたい等の案をもらい調整している。ホーム内の研修も、自分が学び伝えたい事をテーマに挙げ、勉強会に取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>町主催の会議への参加や、外部研修会などで、知り合った他GHの管理者を通じて意見交換などを行い、良いものは取り入れ質の向上を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始の段階では、なかなか本人からの困りごと、要望など見られないが、日常会話から少しずつ本人の望む生活、不安ごとを聞き取り関係性を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	開始前の面接で、家族の困り事、不安・要望を聞き取り、安心出来る関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人・ご家族の思いや状況等を確認した上で、残存能力を十分に生かすことが出来るサービスにつなげられるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事、出来ない事、したくない事を見極め「もし利用者が私だったら、家族だったら」という思いを念頭に置いてケアにあたっている。理念に沿った家族の一員であるという認識を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況に応じて、ご家族様へ連絡させて頂き、ご本人様、ご家族様の意向に沿って対応させていただくように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者に対しては、気を使わずに滞在出来る雰囲気作りに努めている。家族の協力を貰いながら、墓参り・親戚の家・自宅などへも行かれています。行きつけの理・美容室などとの関係も継続できるよう支援している。	ホームの行事に家族や知人、地域住民に声掛けし、一緒に過ごす時を提供している。家族の協力を得ながら行きつけの理・美容院、墓参り、親戚の家、自宅など希望に沿った関係継続支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士で、いさかいが起こりそうな時には、すぐスタッフが間に入るように対応しなるべく孤立される方が無いよう努力させて頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は、お見舞いに行ったり亡くなられた際は、お通夜やお葬式に参列している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声掛けやジェスチャー等を交えて、意向を確認、困難な場合はカンファレンスや、対応するスタッフを替えて分かって頂くまで努めている。	日常生活の中での声掛けや表情から利用者の思いや意向の把握に努めている。本人の意志を尊重した生活が出来るよう、職員は情報を共有、支援している。困難な場合は一人の職員が利用者に常時、関わり、気持ちを汲みとる努力・工夫を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面談の時に、情報収集している。又、面会時や本人との会話の中から、これまでの生活環境、本人の望む事を把握しサービス提供をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや連絡帳などで、スタッフ間の連携を密にし、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向・主治医からの意見などを元に、ケア会議で協議し介護計画を作成している。状況が変化した時は、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の要望を聞いて暮らしぶりを基にケア会議で話し合い、家族支援も計画に掲示するなど、利用者個々に応じた介護計画を作成している。6ヵ月毎にモニタリングを実施し、見直しをしている。状況が変化した時は現状に即した介護計画に見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、様子が分かるように細かく残し、勤務者での送りを徹底し情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の要望等を十分に聞き取り、日々の変化から予測される事をお伝えし、不満の生じないケアを心掛けている。又、遠方の家族の場合は病院への通院、行政機関への手続きなど出来ることは対応行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政や地域の民生委員、町議の方々に相談したり、提案を頂きながら一人一人の生活を支えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。眼科、内科それぞれ月1回の往診となっている。体調異変時には、その時の状態に応じて病院受診、往診など必要な支援を行い、結果はその都度ご家族へ報告している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。月、1回は受診や往診を受けている。受診は状況に応じて家族や職員同行で支援している。医療連携体制あり、職員の中に看護師がいて健康管理できている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>特変時には、ホーム内の看護師に相談し、受診や往診、救急搬送等に対応している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は、病院関係者と情報交換を行い、家族・病院と話し合い、早期退院に向けての働きかけをし、それに対する対応が出来る事をお伝えし、早期退院に繋がった例もある。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に終末期や重度化に伴う対応の指針を家族に説明し同意書を貰っている。又、そのような状態になった時に再度意思確認している。家族や主治医・職員が連携を取り合って、段階的に支援している。看取りの事例もある。</p>	<p>入居時に、事業所としての終末期や重度化に伴う対応の指針を家族に説明し、同意書を貰っている。状況変化に応じ、繰り返し家族と話し合い、随時意志を確認している。全職員が方針を共有し、支援している。看取りの事例もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時対応マニュアルに沿って対応している。避難訓練時に、応急処置・応急手当の訓練に参加している。全スタッフ、普通救命講習受講している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、消防の指導の下に昼・夜間想定避難訓練を実施している。運営推進会議を活用し、地域からの参加協力を頂いた。又、階段移動時の安全な誘導方法や、疑問点などを挙げアドバイスを頂いた。</p>	<p>年2回消防署の指導の下に避難訓練を実施している。消防後援会に加入し、地域住民や隣接企業に協力依頼できている。自主訓練も年2回実施し、利用者・職員の意識を高めている。食料・飲料水の備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	肌を露出する場面、入浴や排泄など羞恥心に配慮している。誇りに思うことを最大限引き出すようにし、プライドを損ねない声かけを行っている。	職員は事例を用いて勉強会を実施、誇りやプライバシー確保については常に確認し合っている。個人として尊重しながらプライバシーを守り、安心と尊厳のある生活支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いに対して、耳を傾け思いに添えるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその時の思いに添って、外に出たり2階へ遊びに出掛け可能な限り、希望に添って出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者様と一緒に、その日の洋服を選んだり、髪染め・カットは本人の希望に添って美容室などへ行くようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ、季節を感じて頂けるような献立をたて一緒に食事の準備を行っている。又、天気の良い日は外で食事をしたり盛り付けなどにも工夫をし目で見えて楽しんで頂けるような工夫をしている。	利用者・職員と一緒に会話を楽しみながら笑顔での食事風景である。職員は食べながら間を持って利用者に合わせた食事介助を実践している。誕生会には本人の嗜好を優先したメニューにしたり、手作り弁当持参の花見やラーメン屋・うどん屋・うなぎ屋等の外食も楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表にて、食事量・水分量を把握し、摂れない方には、コーヒーや紅茶など本人の嗜好を取り入れ好みの物を摂って頂く様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをさせて頂き義歯の洗浄やうがいをして頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターン、習慣を生かしてスタッフの連携を取りながらトイレに案内し、自然排泄を促している。	排泄チェック表を記載し、流れを把握、全利用者をトイレで自然排尿支援している。夏場はリハビリパンツをはずす方向で取り組んでいる。トイレでの自然排泄に職員は達成できた喜びを感じながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳やヨーグルトなどの乳製品を摂っている。又、食物繊維の多いメニューの工夫を行っている。どうしても排便が出ない方については、トイレ案内時の腹部マッサージを行う。又、排便チェック表を参考に服薬コントロールを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	声掛けにより、ご本人様の意に添わない時は、時間や日を替えて入って頂くよう努めている。24時間いつでも入浴可能な体制をとっている。	入浴は24時間対応できる設備を活用、利用者の希望に沿った支援ができています。職員は身体的困難な利用者も浴槽内に入ってもらふ事を前提に、気持ち良さや楽しさを提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の体調等を見て、休息や入床の声掛けをさせて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	生活記録に、薬の情報提供書をとじ、いつでも確認できる状態にしており、症状の変化などあった場合には、ホーム看護師や、かかりつけの薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、出来ること、出来ないこと、したくない事を把握し役割を持って頂き、レクリエーションなどを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地区の行事に参加したり、図書館、スーパーなどに行き地域の方々に会う機会を作っている。	日常的に散歩やテラスでのお茶飲みを楽しんでいる。季節ごと行事を計画し、弁当持参の花見に出かけている。病院帰りの買い物や美容院、墓参り、実家への外出など家族支援で行っている。月、1回は外出支援を計画し、楽しみごと、気分転換等に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>預かり金のある方については、施設で管理し、本人の希望の買い物など行い金銭出納帳を、面会時などに確認して頂いている。預かり金が無い方についても、ご家族と相談し希望の物を購入している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご本人様からの訴えは、ほとんどないが家族からの電話、便りがきた時には、お伝えしお話をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の飾りつけや、園庭に咲いている花を飾ったりしている。共同制作した作品や写真など展示している。敷地内の多目的ホールでは、季節ならではの行事や誕生会など行っている。</p>	<p>リビングからテラスに出られる開放的な作りの明るい見晴らしの良い共用空間である。リビング兼食堂にはテーブル・椅子やソファが置いてあり台所もオープンで食事の支度や配膳など生活を感じる。季節の花を飾り、居心地よく過ごせるよう支援している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う仲間と一緒に過ごしたり、居室でゆっくりテレビを見たり思い思いの時間を過ごしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の同意を得て、居室入り口には名前と顔写真があり、自分の部屋が分かるようにしている。入所時に、昔から使い慣れた家具や家族の写真など持って来て頂き、安心して暮らせる空間作りをしている。</p>	<p>ベッド以外は本人持込で利用者の個性、日常生活がわかる居室になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手を貸しすぎず、出来ることは自身ですて頂き、出来ない事に対してお手伝いし、安全に自立した生活が送れるよう支援している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない